

## TOPICS

認知症ケア  
チーム認知症ケアチームの  
ご紹介

## 1 認知症ケアチームの概要

認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さがみられ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者に対し、多職種が適切に対応することで、認知症の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的として活動していきます。



## 2 活動内容

- ・週に1度カンファレンスと病棟ラウンド
- ・認知症の診断や認知機能の評価、薬剤調整のアドバイス
- ・認知症の行動・心理症状を予防するための環境調整、ケアの提案
- ・今後の生活についての支援
- ・家族のサポート
- ・病院職員への研修

## 3 認知症ケアチームメンバー

## リーダー

齋藤 雅人 (医師、認知症サポート医)

## メンバー

中曽根 朱美 (認知症看護認定看護師(現在、教育課程終了者))

上北 恵子 (社会福祉士)

島田 浩 (社会福祉士)

安田 耕一郎 (作業療法士)

上田 博子 (薬剤師)

岡 友理 (管理栄養士)

塚田 紗也 (管理栄養士)

## 事務局

船岡 佐知子 (事務)

## 4 認知症看護認定看護師より

認知症看護認定看護師教育課程修了者  
中曽根 朱美

鳥根県松江市にて 7ヶ月間の認知症看護認定看護師教育課程の研修を今年 2月に終わりました。研修は講義・テスト・レポート・臨地実習と想像以上にハードで、慣れない土地で苦難の連続でした。研修では認知症の方を取り巻く環境調整の必要性を学ぶ中で、看護師自身が認知症患者の環境の1つであること知り、ケアの方法だけでなく看護師の関わり方の大切さを痛感しました。また、認知症患者を多角的にアセスメントすることの重要性や看護倫理を改めて学び、看護師は認知症患者の代弁者であると認識を新たにしました。認知症の方は何もわからない、何もできないと考える人が多いと思いますが、苦手なことが増えただけで、説明や見守りの時間を少し長くしたり、認知症の方のできる部分に着目することで、『持てる力』を発揮することができます。今後は認知症の方の現存機能(認知症看護では残存機能とは表現しません)に着目し、『持てる力』を発揮できるケアの方法や、環境の一部である看護師の存在が安心感につながる関わり方を皆さんと一緒に実践していければと思っています。また私自身が実践を積み重ね、皆さんの認知症看護に対する疲弊感やストレスが少しでも軽減できるような活動をしていきたいと思っています。



社会福祉法人

恩賜財団 済生会京都府病院

〒617-0814 長岡京市今里南平尾 8 番地

地域医療支援室

TEL 075-956-3825  
FAX 075-956-3826

受付時間 (原則) : 平日 8:45 ~ 19:30 (木曜日は 17:00 まで)

# 認知症ケアチーム が結成されました

認知症サポート医 齋藤 雅人



## はじめに

我が国は世界でも有数な長寿国であり、超高齢社会です。それに伴って認知症患者も増え続けています。いまや認知症は、国民病といっても過言ではないでしょう。必然的に当院においても、入院患者の中には主病以外にもともと認知症を患っている方も多く、臨床の現場ではいろいろな場面でその対応に苦慮することがあります（一番困っているのは患者本人だと思いますが）。

このような社会情勢の中、当院に新たに認知症ケアチームが結成されました。当座の目的は、今回の診療報酬改定による認知症ケア加算1を算定できる体制をつくるためですが、上述の社会情勢を鑑みると臨床上も必要不可欠の体制づくりではないかと思えます。

## 認知症ケアチーム結成までの経緯

認知症ケア加算1を算定するためには、専任の常勤医師、専任の常勤看護師、専任の常勤社会福祉士からなる認知症ケアチームを結成する必要があります。今年になって、7ヶ月という長期の認知症看護認定看護師教育課程を終えて中曽根朱美が当院に復帰しました。このことが認知症ケアチームを立ち上げるための大きな動機付けになったことと思います。常勤の社会福祉士はもともと優秀な人材がいます。

問題は専任の医師ですが、私に白羽の矢が当たり

ました。コロナ騒動が始まる直前の昨年12月に、私は認知症サポート医になるための研修を受け、今年1月に修了証をいただいたところでした。それが認知症ケアチームのメンバーになる資格に適合しているらしいのです。私がチームに加わることによって、形式上は認知症ケア加算1を算定できる体制ができあがったというわけです。

## 認知症サポート医と私

私がなぜ認知症サポート医になったのかを、簡単に説明させていただきます。私は認知症の専門家ではありません。専門は泌尿器科です。ただ15年間の開業医生活とその後の当院の地域包括ケア病棟での診療を通じて、多くの認知症患者を診てきました。そのような経験から、認知症に対して自分なりに勉強し興味と関心を抱いてきました。そんな折、旧知である下尾和敏先生（現乙訓医師会副会長）に認知症サポート医という資格があって取得のための研修があることを教えていただきました。そこで乙訓医師会から京都府医師会に推薦していただき、京都府医師会から国立長寿医療研究センターに研修の申し込みをしていただきました。その際にお世話になった下尾先生をはじめ乙訓医師会の先生方に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。今後は乙訓医師会、京都府医師会の先生方にご指導をいただきながら、当院ならびに地域の認知症ケアに関わって行きたいと思っておりますので、認知症ケアチームともどもよろしくお願いいたします。



社会福祉法人  
恩賜財団

済生会京都府病院

〒617-0814 長岡京市今里南平尾8番地

地域医療支援室

TEL 075-956-3825  
FAX 075-956-3826

受付時間（原則）：平日 8:45～19:30（木曜日は17:00まで）